

**令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度**  
**「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 吉備」**

**1. 事業の目的(趣旨・ねらい)**

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

**2. 事業の概要**

**(1) 期日**

第1回 令和5年6月10日(土)～6月11日(日) 1泊2日

第2回 令和5年6月17日(土) 日帰り

※第2回に都合のため欠席した参加者2名が令和5年8月16日(水) 25日(金)に発表を行った。

**(2) 参加者**

① 募集対象・人数

全日程に参加できる県内の高校生(募集定員10名程度)

② 参加者

第1回 6人

第2回 4人(後日2人個別参加)

**(3) 連携機関**

吉備中央町地域おこし協力隊

加茂川優害獣利用促進協議会

ブルーベリーはるな園

農家民宿「みっちゃん」

農家民宿「やまと」

**(4) 企画・運営のポイント**

- ① 「地域おこし」について様々な角度から取り組む方々を講師として招くことで、様々なアプローチや視点を学ぶことができるようにした。
- ② 地域活性化のために取り組んでいることや様々な工夫を参加者自らが体験することができるようなフィールドワークを設定した。体験を通じて高校生が考えたアイデアを連携機関の方に伝え、意見をいただくことで、自分たちが気付かない面にも気づくことができるようにするなど、活動内容を工夫した。
- ③ 主体的な学びにつながるようにグループ活動や振り返りの時間を大切にした。
- ④ 宿泊を伴う際の発表は、ポスターセッションに限定したが、日帰りの発表は参加者の実態に合わせてパソコンやタブレット端末も使える環境を整えた。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 日程

①令和5年6月10日（土）～11日（日）1泊2日

1日目		2日目	
9:15	受付	6:30	起床・洗面
9:30	開講式	7:30	朝食
9:45	アイスブレイク	8:30	フィールドワーク②
10:15	ガイダンス	10:30	講義・演習③「地域課題の探究」
11:00	講義「地域おこしの様々な活動」	12:30	昼食（レストラン）
12:30	昼食（レストラン弁当）	13:30	発表①
13:00	フィールドワーク①	14:30	諸連絡
16:00	講義・演習①「地域理解」	14:45	解散
18:00	夕食		
19:00	講義・演習②「課題解決の基礎」		
21:00	入浴		
22:00	就寝		

②令和5年6月17日（土）日帰り 会場：ピュアリティまきび（岡山市）

3日目	
9:30	受付
9:45	諸連絡
10:00	講義・演習④「行動計画の基礎」
13:00	昼食（参加者持参）
14:00	発表②
15:00	講義・演習⑤ 「実践活動のためのガイダンス」
16:00	閉講式
16:15	解散

#### (2) 活動の状況

①令和5年6月10日（土）～6月11日（日）



【アイスブレイク】



【講義「地域おこしの様々な活動」】



【講義「地域おこしの様々な活動」】



【フィールドワーク①】



【フィールドワーク①】



【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】



【フィールドワーク②】



【フィールドワーク②】



【講義・演習③「地域課題の探究」】

②令和5年6月17日（土）



【講義・演習④「行動計画の基礎」】



【発表】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：100%

##### (2) 参加者の声

- ① 農業体験をして、農家の人の努力と苦勞が分かった。
- ② 地域おこし協力隊の人は、自分のしていた職を生かして地域おこしをしていてすごいと思った。工夫次第で誰でもできると言っていたので、私もやってみたいと思った。
- ③ インターネットで調べるよりも現場に行って自分が思ったことや感じたことを大切にしたいと思った。
- ④ 自分の気付かなかったことをグループ内で共有することで、より理解を深められたので、KJ法は良いと思った。
- ⑤ 6W3Hを考えると、より具体的な行動ができることを知ったので、意識して行動計画を立ててみたいと思った。
- ⑥ 自分は意外とリーダーシップがあると思い、新しい自分に気付けて良かった。
- ⑦ 普段、地域のことを考える機会がないので、考えてみると面白いと思った。もっと授業でやってみたいと思った。

##### (3) 成果

- ① 講師の方と連絡を密にとることで、興味深い話をさせていただいたり魅力的な実物を用意していただいたりすることができ、受講生にとって有意義な時間になった。
- ② 企画指導専門職で講義の流れを話し合うことで、つながりをもたせることができた。
- ③ 参加者の学習意欲が高く、熱心に活動に取り組むことができていた。農業高校の生徒と普通科高校の生徒が同じ活動をすることで、フィールドワークやグループワークで教え合ったり学び合ったりする姿が見られた。
- ④ 最終日の発表では、ポスター発表だけでなく、タブレット端末やパソコンを選択できるようにした。得意分野を生かして、より伝えたいことを明確にしたり聞き手を引き付けたりして発表の質が高まった。

##### (4) 今後の課題

- ① 個別参加型のカリキュラムAで開催したが、当初は参加者が集まらず、追加でチラシの発送や直接広報などを行った。今回、ある高校の生徒4名が学校からの派遣という形で参加した。担当の先生から「今後も継続的な参加を視野に入れていきたい」という言葉をいただいた。そのような場合は、カリキュラムBの学校連携型になり、プログラム内容が大きく変わると思われる。
- ② 活動プログラムの時間設定にゆとりが無く、参加者に疲労が溜まっていた。長時間の移動などがあり、体力的にもつらかったことがアンケートからもうかがえた。今後は、参加者の立場でゆとりのあるスケジュールにする必要がある。

担当：企画指導専門職 八木 雄治